

## 「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立に向けた中央執行委員会緊急声明！

2023年6月16日1時42分、内房線上総湊～竹岡駅間において、協力会社作業員が点検台上で高圧配電線引下線取替作業を行っていたところ、感電・受傷し死亡という痛ましい事故が発生した。JR東日本の安全・安定輸送を遂行するため、「施工のプロ」として、設備の保守作業に尽力していたにも関わらず、お亡くなりになったご本人、ご家族の皆さまにご冥福をお祈りすると共に謹んでお悔やみ申し上げます。

JR東労組は、2023年6月12日、第42回定期大会を開催し、「新生JR東労組運動宣言」に基づき、仲間を守るため職場からたたかうこと、組合員・社員の努力に報いない会社の経営姿勢に立ち向かうこと、「抵抗とヒューマニズム」の精神を根底に、組織強化・拡大を実現し、全ての仲間と共に職場から未来を切り拓いていくことを確認してきた。また、命と安全を最大の価値基軸に、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立の実現に向けて決起することを意思統一し、経営のトッププライオリティである「安全」が、単なる掛け声になっていると言わざるを得ないと警鐘を鳴らしてきた矢先の事故であり、尊い命を失ったことは痛恨の極みである。

JR東日本会社は、感電死亡事故を受け6月16日から6月19日早朝までの間、き電停止、配電停止を伴う全ての作業を中止した。また、当面の対策として感電死亡事故の周知及び注意喚起、停電作業における基本ルールの再徹底として「検電の実施」「接地取付けの実施」「停電確認の実施」を全従事者に対して実施するとしている。

一方で、職場からは感電死亡事故の原因は調査中ではあるものの、「確実な検電・接地ができていたのか」「現示停止になっていなかったのは何故か」「絶縁保護具等の着用は実施されていたのか」「システム上のトラブルはなかったのか」など多くの疑問点が中央本部に届いている。

JR東労組は、事故発生後、直ちに本部工務部会を中心に「原因究明委員会」を設置し、開催してきた。それは、パートナ会社・協力会社の事故で終わらすことなく、当事者意識を持ち組織事故の観点と何よりも仲間の命を奪ってはならないという危機感からだ。

JR東日本発足以降、私たちは約190名の仲間の尊い命を失った。これ以上、安全レベルの低下を生み出してはならない。「原因究明委員会」を通じて、職場から届いた多くの疑問点の解決をはじめ、背後要因を確定し、事故から学び、真の対策を打ち出していく。

運輸区職場でも、現場第一主義とはかけ離れた現実が発生している。国府津運輸区や宇都宮運輸区で発生した懲罰的日勤教育によって、組合員が病欠や医療保護入院にまで追い込まれ、豊田運輸区では人間破壊の事前通知によって、組合員が病気休職にまで追い込まれた事象も発生している。人権侵害・人間破壊を経営が容認するのであれば、断じて許すわけにはいかない。

JR東労組は、現場第一主義を取り戻すために、命と安全を最大の価値基軸に、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立を実現するために、全組合員で実践していくことを訴えるものである！

2023年6月19日  
東日本旅客鉄道労働組合  
中央執行委員会